

## 平成30年度は、曾孫世代の方が家族から聞いた当時の状況に対し感じた思いを発表いただきました。

<戦後73年大阪戦没者追悼式>

「戦後73年大阪戦没者追悼式」(平成30年8月3日金曜日)では、戦没者のご遺族の中から小学4年生から中学2年生までの児童・生徒6名の皆さんにご参列いただき、遺族から児童・生徒の皆さんへの戦争体験や平和の大切さの語り継ぎを通じて感じた、戦争の悲惨さや平和の継承の大切さへの思いを綴った「平和への誓い」を発表していただきました。

○平和への誓い

榎仲 哲矢さん【八尾市立高安中学校 2年生】



戦後73年経った今でも、祖父等の年代以上の人々の心の奥底に戦争の傷跡が残っています。祖父4才の昭和19年8月、曾祖父は家族5人残り、行き先も告げず戦地へ向かいました。戦争も益々厳しくなり、昭和20年8月15日終戦を迎えましたが、曾祖父の安否は判らず、家族はラジオ・新聞のニュースで、戦地からの生還者の名簿を確認する日々の毎日でしたが、祖父が6才になった昭和21年1月28日、昭和19年11月11日フィリピン諸島にて戦死の死亡通知書が届き、それまでの望みも断ち切られました。戦争を経験していない僕達には充分理解しかねますが、今後この様な悲しい出来事が起こらないように、僕達は頑張らなくてはなりません。

僕の曾祖父（ひいおじい）ちゃんが戦争に召集され戦死したのは、祖父が小学一年の時、祖父が小学一年の時、それから生活は貧しくなり祖父は家計を助ける為、小学四年から朝夕の新聞配達を中学三年まで続け、靴下に穴があいても履き続け冬の早朝は冷たかった。中学時代の弁当は、日の丸弁当を友達と食べるのが恥ずかしく、昼休み15分走って家に帰り、雑（ざ）こく澁（しぶ）じりのめに朝の残り味噌汁をぶっかけて食べて、午後（ひるご）の授業に出た。曾祖母（ひいばあ）ちゃん（ひいばあ）は毎日働きに出たので、暗い部屋の中、曾祖父（ひいおじい）ちゃん（ひいおじい）の位牌（ゐはい）だけが目につきわびしかった。と祖父は話してくれた。戦争体験のない僕は祖父の話聞いて、多くの人を苦しめ悲しませる戦争はあってはならない。

世界平和を守る為、戦争の事実を学び、平和について考えていきたい。



ぼくは、時々おばあさんからひいおじいさんの話を聞きます。ひいおじいさんは、おばあさんが生まれた時にはもう、戦争でビルマに行っちゃって、戦争が終わっちゃってからも一度も会えませんでした。もしも、ぼくのお父さんが戦争に行っちゃったらと考えると、悲しく辛いです。この先も、今のような平和が続いて、世界中から戦争がなくなるといいな。

私は約3年ほど前に戦争について色々な事を知りました。  
ひいおじいちゃんは、31才の若さで戦死で亡くなったそうです。  
戦争で若くして亡くなれた人がたくさんおられたので、たいへんビックリしました。  
戦争について語りついで行かなければいけないと思いました。  
もし私たちの親が戦争に行って死んでしまったら、私たちは生き方が分かりません。  
これからも戦争がおこらないでほしいと願っています。



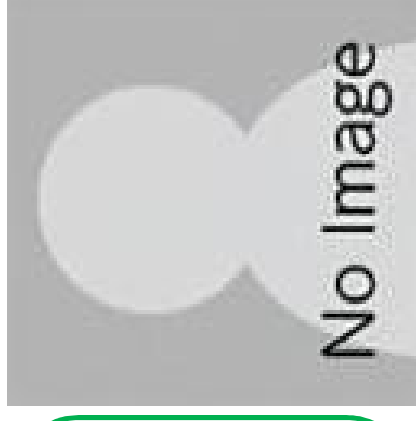
私は小六なので学校で平和に関する事をしています。  
平和学習をしていつも思うのが、昔、犠牲があったから今の平和があるんだということ。  
いろんな人、いろんな物がなくなって平和になった世界なのに、イラク、アフガニスタン、  
シリアなどでは内乱がおこっています。  
私達は日本だけでなく、世界中の問題を知り、私達の子孫に「平和のバトン」をわたし、これ  
からずっと平和という事はどういう事かというのを分かってほしいです。  
私は、「平和」という事はどういう事かと考え、それを目標にみんなで頑張るのがこの世界を  
「平和」にする一番の近道だと私は思います。

私が今生きているのは、戦争に立ち向かった曾祖父(ひいおじい)ちゃんたちのおかげだと分かりました。なので、今の命を大切にしようと思います。

家族にあえなくなるとは、私にとってもいやなことですが、昔の子どもたちはそれをがまんしていたと思うとすごいです。

私は、大きくなって戦争がおきそうになったら必ず「反対です！」と言えるようになりたいと思います。

日本が成長していくため、人の命がむだにならないためにも、私は社会に「戦争は反対です！」と手をあげていきたいです。



## ○パネル展示



「戦後73年大阪戦没者追悼式」会場のロビーにて、ピースおおさかによる大阪大空襲や戦時下の暮らしなどのパネル展示を行いました。

ピースおおさかのホームページ

<http://www.peace-osaka.or.jp/>